

<全体分析>

試験時間 2科目で 120 分

解答形式

マーク、計算、記述

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

難しい問題は少ないが、計算を伴う問題が多く、2科目で120分では時間的な余裕はない。

その他トピックス

例年に比べて、記号選択の問題が増えた。

〔I〕一部の問題に解答の指示が付いた。

- (1) 鉄と食塩の融点に関する知識が必要である。
- (4) 滴定曲線の概形に違和感を覚えた受験生もいたと思われる。
- (6) $1W=1J/s$ が与えられていなかった。
- (10) ベンジルアミン、メチルアニリンの性質を推測するのは困難である。

〔II〕会話文が出題された。

問4 電離度の定義が曖昧であった。

〔III〕問5 立体構造式が読み取れない受験生もいたと思われる。

問6 PETのエチレングリコール分解による解重合が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔I〕	マーク 計算	小問集合	化学基礎 化学	(1) 物質の融点、有機化合物の沸点 (2) エステル化の反応機構、平衡移動 (3) 溶媒抽出 (4) 滴定曲線、電離平衡 (5) 反応速度と平衡 (6) 状態変化に要する加熱時間 (7) 体心立方格子の充填率、鉄の密度 (8) 混合気体 (9) トタン (10) C_7H_9N の芳香族化合物の性質	標準 標準 標準 やや難 やや易 標準 標準 やや易 易 やや難
〔II〕 (1)	マーク 記述 計算	無機・理論	化学	二酸化炭素、カルシウム化合物の製法・性質 二酸化炭素の製法、 カルシウム化合物の製法・性質 石灰水の pH、炭酸の電離平衡と平衡移動	標準
	マーク 記述 計算			実在気体 ファンデルワールスの状態方程式、 理想気体と実在気体のずれ、圧縮率因子	やや難
〔III〕	マーク 記述 計算	有機	化学	高分子化合物の分解と再利用 デンプンの加水分解、グリコーゲン、 酵素反応の最適温度と最適 pH、 フェーリング液の還元における沈殿量、 ラクチドの構造、 PETとナイロンのケミカルリサイクル、 アミド結合を含む高分子化合物	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ほぼ全範囲から出題されるので、苦手分野をなくし、幅広く学習する必要がある。基礎知識を確実に身につけ、標準的な問題の演習を十分に行うこと。また、計算問題が多いので、効率よく計算する訓練をしておくこと。酸化還元、反応速度、化学平衡は頻出である。